

授業概要

将来的に、教育・保育の現場において十分に対応できる能力を身に付けることが重要である。このような最終的に沿うために次のことを具体的な狙いとする。教職課程・保育士養成課程の履修やさまざまな活動を通して、教員・保育士として最小限必要な資質能力が形成されたかという事について確認する。そのために、教員・保育士になる上で自己にとっての課題を自覚し、不足している知識や技能を補い、その定着を図る。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	保護者からのクレームの現状
第 3 回	保護者からのクレームへの対応
第 4 回	保護者からのクレーム対応技術としてのロール・プレイングの役割と実践
第 5 回	ロール・プレイングの実践と評価
第 6 回	保育活動における表現としての音楽活動のあり方
第 7 回	保育・教育現場で役立つ手遊び、コード伴奏の復習
第 8 回	保育・教育現場で役立つ手遊び、コード伴奏の演習
第 9 回	伴奏譜の書き方
第 10 回	保育者に必要な傾聴法
第 11 回	保育現場でのストレスケア
第 12 回	アサーションを使った保護者対応
第 13 回	保育者としての自己理解
第 14 回	外部講師による講話
第 15 回	全体のまとめ

到達目標

教育・保育士として求められる資質・能力について次のことを到達目標とする。

1. 使命感や責任感、教育・保育的愛情
2. 社会性や対人関係能力
3. 子ども理解や学級経営
4. 教科・保育内容などの指導力

履修上の注意

1. 3名の教員のそれぞれの専門性に基づいた講義・演習であり、保育・教職実践の目的に関わる重要な内容であるのでしっかりと受講すること。
2～5回、6～9回、10～13回、各4回ずつを3グループに分けてオムニバス方式で受講する。
2. 出欠席は実習に準じる扱いとなる。
3. 受講の姿勢として、積極的な受講態度で望むこと。

予習・復習

シラバスに基づき次回の内容についてはあらかじめ下調べをしておくこと

評価方法

レポート提出 50%、受講態度(積極性)50%に基づいて評価する。

テキスト

特には指定しないが、必要に応じてその都度指示する。